チャペル週報

No.18

2015.10.12 ～ 10.16

秋季宗教運動特集号

草は枯れ、花はしぼむが、
わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ。
（イザヤ書　40章　8節）

山川記念館

関西学院宗教センター

☆チャペル・スケジュール☆

時間 10:35～11:05　　場所 各学部チャペル

10月12日(月)
神 森　美　由　紀（神学研究科M2）
経 秋季大学キリスト教週間を迎えて①　舟　木　　譲（宗教主事）
人 音楽チャペル　ゴスペルクワイア "P.O.V."
聖和 聖書物語　洗礼者ヨハネ、イエスの弟子たち
理 バロックアンサンブル

10月13日(火)
神 シリーズチャペル　私にとっての世界市民とは　浅　野　淳　博（神学部准教授）
文 Andreas Rusterholz（宗教主事）
社 上ケ原ハビタットによるチャペル
法 "Pollution and Justice" Tomonari Nakamura, Hogakubu Grad. Stud.
経 秋季大学キリスト教週間を迎えて②　舟　木　　譲（宗教主事）
商 山　本　俊　正（宗教主事）
国 長　友　　淳（国際学部准教授）
聖和 田　淵　　結（教育学部宗教主事）
理 前　川　　裕（宗教主事）
総 くじら　フィリピンの女性と子どもと一緒に歩む学生団体

10月14日(水)
神 山　本　有　紀（尼崎教会牧師）
法 望　月　康　恵（法学部教授）
経 English Music Chapel　Timothy Dale Boyle（Chaplain）
商 永　田　修　一（商学部助教）
人 小　西　砂千夫（人間福祉学部教授）
国 加　納　和　寛（神学部助教）
聖和 少女たちの学級日誌 1944－45 年　広　渡　純　子（聖和短期大学教授）
理 前　川　　裕（宗教主事）
総 村　瀬　義　史（宗教主事）

10月15日(木) **大学合同チャペル「総主題：共に生きる～自然・環境・隣人～」10:20～11:20**
西宮上ケ原キャンパス　会場：中央講堂
「Stewarding God's Creation」 Gilbert Hoggang（アジア学院職員）
西宮聖和キャンパス　会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「アジア学院に生きる」 荒　川　朋　子（アジア学院校長）
神戸三田キャンパス　会場：Ⅵ号館 101 号教室
「分ち合って生きる」 大　津　健　一（アジア学院理事長）

10月16日(金) **大学合同チャペル「総主題：共に生きる～自然・環境・隣人～」10:20～11:20**
西宮上ケ原キャンパス　会場：中央講堂
「分ち合って生きる」 大　津　健　一（アジア学院理事長）
西宮聖和キャンパス　会場：メアリー・イザベラ・ランバスチャペル
「Stewarding God's Creation」 Gilbert Hoggang（アジア学院職員）
神戸三田キャンパス　会場：Ⅵ号館 101 号教室
「アジア学院に生きる」 荒　川　朋　子（アジア学院校長）

◇ランバス早天祈祷会　　8：20 ～ 8：40　　ランバス記念礼拝堂（上ケ原）
10月15日(木) 宗教運動のために　　Jeffrey Mensendiek（宗教センター宗教主事）
10月16日(金) 情報環境機構のために　　尾　崎　幸　洋（情報環境機構長）

神を愛し、隣人を愛し、土を愛する

ジェフリー　メンセンディーク

栃木県の田舎に、世にも珍しい学校がある。教室はもちろんだが、みんなが一緒に食事をする食堂、男子寮と女子寮、事務棟、チャペル、さらに実習のための農場、そして家畜小屋まである。研修生は９か月間の研修のためにアジア・アフリカ・中南米などの農村からやってくる。彼らはそれぞれの地元のリーダー的存在。研修は田植えから始まり、有機野菜や家畜を育て、文化や宗教の違う人との共存を学び、秋には収穫感謝祭を祝い、そして国に帰る前には最終レポートを完成させる。日本の技術を学ぶため、または日本に見習うところがあるから来るのではない。むしろ、人類がこの地球上で生きながらえて「共に生きるために」何をなすべきか、お互いから学び合う場として集まってくる。この学校の名前はアジア学院。キリスト教をベースとした教育共同体である。

今年の秋季宗教運動のテーマとして「共に生きる～自然、環境、隣人」が掲げられている。神様が造られた地球上の自然界は実に美しく、私たちの命を育んでくれる。しかし、最近では地球温暖化、気候変動、環境破壊、放射能汚染など、人間が自然に与えている負荷が目に見えて著しい。この時代にあって、共に立ち止まって考えてみたいのは、私たち自身の生き方や自然界に対する責任だ。上記の諸問題はどれをとっても自分一人の力では何もできない気がしてならない。そこで、今回はアジア学院の方々をお迎えして、彼らの地道な実践から学びたいと思う。

先月、学生たちとアジア学院を訪れた。ワークをさせてもらったり、研修生と交流したり、スタッフからレクチャーを受けることもできた。そのレクチャーの中で「神を愛し、隣人を愛し、土を愛する」という言葉に出会った。アジア学院では地元のリソースを利用しながら自分たちの食べるものを育て、それを周りの人と分かち合い、そして、その豊かな生活を神様に感謝する。そういう営みを実践している。

学生たちが今回最も衝撃を受けたのは生まれたての子豚たちを見た時だった。スタッフの方から、「この子豚はどれぐらい経ったら食肉用として持って行かれると思う。」と問われ、答えを聞いてみんなびっくりした。自分たちが日ごろ食べている豚肉は生後６か月のものだった。訪問を終えた学生の感想。「いかに自分たちが普段「食」について何も考えないで生きているのかを実感した。」Think Globally, Act Locally という言葉にもあるように、グローバルな問題を足元から考えるきっかけとして今年の宗教運動の出会いが用いられますように。

（宗教センター宗教主事）

「震災後の体験～自然･環境･隣人」

荒　川　朋　子

アジア学院はアジアへの侵略戦争への償いとして、1973年に栃木県那須山に創設されたイエス・キリストの愛に基づいてアジア、アフリカの農村指導者を養成するために作られた小さな学校です。「ひとといのちを支える食べものを大切にする世界を作ろう―共に生きるために―」という理念を掲げ、食べものを共に生産し、共に食す、という人間にとって最も本質的な活動を中心に生活しながら、人と人、人と自然が共に生きる生き方を追及しています。特に畜産と野菜・作物栽培を組み合わせた有畜複合有機農業で食糧自給を目指し、与えらえた自然から人間の成長のために望ましい持続可能な環境を作り出そうと努めています。

アジア学院は2011年3月11日の震災で大きな被害を受けました。といっても東北３県の地震、津波、放射能の甚大な被害を受けた地域に比べれば大したことはないレベルかもしれません。しかし少なくともアジア学院の歴史の中で行く末を左右する大きな出来事でありました。そしてこの出来事は今「秋季宗教運動」のテーマである、共に生きること、自然、環境、隣人のすべてに関係する出来事です。

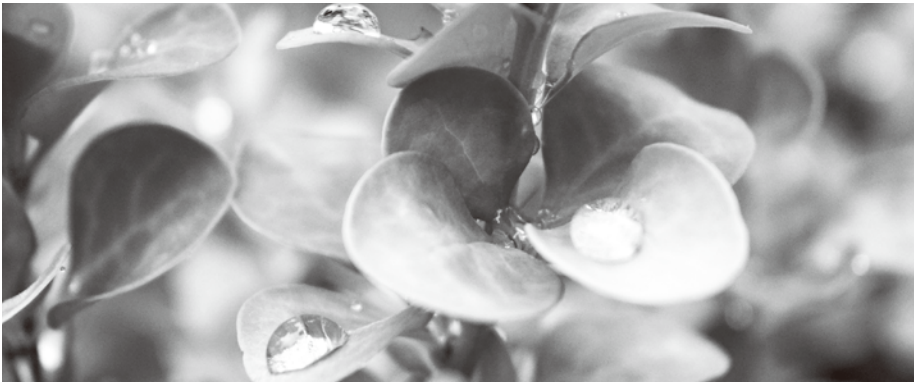
2011年３月11日、学院が創設されてから38年目、東日本を巨大な地震が襲い、栃木県北部も震度６強の揺れに襲われました。キャンパスのほとんどの建物は築40年のおんぼろでしたので、甚大な被害を受けました。新学期前でしたので、幸い海外からの学生はまだ１名もおらず、一度卒業をして２度目にトレーニングアシスタントとして戻ってきた２名の卒業生と、数名いたボランティアたち、家畜は全て無事でした。

しかし、私たちにはもう一つ大きな問題がありました。それはその翌日から起こった福島第一原発の事故による放射能汚染です。この被害は建物のように簡単には解決できないものでした。福島原発はアジア学院から直線距離で110kmのところにあります。事故のニュースを受け私たちは毎日情報収集と学習を懸命にしました。しかし情報が錯綜し、多くの疑問に襲われます。この地を離れるべきか、留まるべきか。放射能で汚染された農地で農業ができるのか。海外からの学生、ボランティア、またお客様は来てくれるのか？そして私たちの健康はどうなるのか？

パニック状態は1週間ほど続きましたが、幸いにも地元に住むある工学博士から信頼性の高い情報を得、那須の地でもなんとかやっていけることを確信し、新学期を１か月遅らせて研修を始めること、原発事故の収束を見極めるため５月～７月までの３か月間は東京町田市の農村伝道神学校の校舎に避難して研修を行うこと、その間も半分の職員は学院に残り除染とハウスなどでの食糧生産を続けることなどを決めました。そして那須ではその工学博士を中心に始まった「那須を希望の砦にする」プロジェクトという市民運動に発足から関わり、地元の住民の方々と一緒に放射能の計測、勉強会、これからの新しい生活のあり方を模索する活動を始めました。多くの新しい隣人とも出会い、協力し合い、放射能で汚染されたこの地で生きていく覚悟と共に、具体的な施策を打ち出していきました。

原発は人間の、人間による、人間のためのものです。原発がなければ起きなかった事故ですから、放射性物質の拡散はまぎれもなく人災です。そして原発にここまで頼りきった社会を作ってきた責任は、構造的に誰かにより重くあるとはいえ、

自分を含めた全国民にあります。誰か特定の個人や組織を責めることはできません。戦うべきは原発推進を進めた社会構造を作ることに加担した自分であり、すでに撒き散らされた放射能は戦う相手ではなく、避けることのできない真摯に向き合っていかねばならない相手であり、「共に生きる生き方」を探っていかなければならない相手であると思っています。放射能にいくら歯を剥いても、放射線量は減りません。脱原発を訴え続けても、今すぐ原発が消えてなくなるわけでもありません。見えもしない、においもしない放射性物質は、「どこにいますか」と丁寧に探して訪ねて、みつかったらそれをよけて避けて、自分らが安全に生きられる空間と方法を模索していく、これが今回被害を受けた地域の人々だけでなく、地震大国に54基もの原発をつくってしまった国の市民の生きるべき道、後戻りのできない道だと私は思います。今この国に住むひとはひとり残らず、そういう現実の中にあるということを自覚しなければならないと思います。



私たちは福島第一原発の事故まで、農業、特に有機農業は太陽と空気と水と土があれば、どれだけでも豊かに行えると信じていました。アジア学院で、これらをフルに活用して、神様の愛と、自然の循環を実感しながら、これからもずっと豊かな農業が、人間の真の自立のための農業が行えると思っていました。そしてこうした農業のあり方が、世界の農村の様々な問題の解決の糸口となり、人々の生活を有機的で生産的なものに変え、社会を少しづつでもよい方向に向かわせることができると信じていました。しかし原発によって支えられるエネルギー政策

に無頓着であったことが、今の現実を引き起こし、自分らが実は全く違う世界に生きていることを明らかにしました。しかし多くの人々が同じ後悔の念の中にいたのか、今回の安保法案の件では、無関心でいてはいけないと立ち上がった人が多くいたことは市民社会の大きな前進だと思います。

事故から5年が経とうとして、幸いにも今アジア学院の農地で生産された農産物から放射能が出ることはほとんどなくなりました。しかし2012年1月に開設した市民放射能測定所「アジア学院ベクレルセンター」で今でも毎日新しく採れた農作物はすべて計測しています。この地で自然とは、環境とは、そして隣人とはという問題と向き合いながら、アジア学院が神に与えられた使命を追求し続けたいと思っています。

（アジア学院　校長）

●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプローズタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50～18:20　1405教室)

10月主題:「創立126周年をおぼえて」
10月15日(木)　舟木　譲(大学宗教主事)
10月22日(木)　Jeffrey Mensendiek(宗教センター宗教主事)
10月29日(木)　田淵　結(宗教総主事)

●オルガン音楽の泉 2015 Fall Semester

パイプオルガンの響きに憩うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第６回　10月21日(水)　高橋　明子(日本聖公会川口基督教会オルガニスト長)
第７回　11月19日(木)　坂倉　朗子(本学オルガン講師)
第８回　12月４日(金)　太宰　まり(関西学院オルガニスト)
いずれも12時50分～13時20分(12時40分開場予定)
　　ところ: 関西学院中央講堂
　　問合せ: 宗教センター

●ランバスチャペルアワー

学生たちが企画するチャペルです。秋学期の予定は以下のとおりです。

10月19日(月)　ゴスペルクワイア"P.O.V."＆ハンドベルクワイアによる音楽チャペル
11月16日(月)　聖歌隊＆バロックアンサンブルによる音楽チャペル
ランバス記念礼拝堂(上ケ原)10:35～11:05

●夕べの祈りatランバス～テゼの音楽とともに～

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごす夕べの祈りのひとときです。どなたでもご参加ください。

第５回　11月５日(木) 18:30～20:00
第６回　１月７日(木) 18:30～20:00
ところ: ランバス記念礼拝堂(西宮上ケ原)
主　催: 夕べの祈り準備会(学生有志)
協　力: 関西学院宗教活動委員会

●第200回記念ランバス演奏会

「バッハ:ゴルトベルク変奏曲」全曲演奏会

1961年から開催しております「ランバス演奏会」が200回を迎えます。記念演奏会となる今回はバッハのスペシャリストによるチェンバロ演奏をお楽しみください。＜入場無料＞

演奏者: 高田　泰治(日本テレマン協会)
と　き: 11月７日(土) 13:30開場　14:00開演
ところ: 関西学院ランバス記念礼拝堂(西宮上ケ原キャンパス)
主　催: 宗教センター

●ＣＤ・ＤＶＤライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書必要)であればどなたでも利用できますので、希望者は事務室までお越しください。

●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

●盲導犬育成のためご協力お願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室はじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。